

## ○ 取組の背景

- 1 イチゴ、ガーベラ等施設園芸作物の高齢化・後継者不足による栽培面積、農家戸数の減少
- 2 経験的、感覚的なハウス内環境管理による低い単位面積収量とそれに伴う小規模経営

## ○ 課題・目標

- 1 企業的経営体の育成と規模拡大支援による産地規模の拡大
- 2 スマート農業の導入による環境管理の自動化と単位面積収量の増加

表1 対象集団の目標販売金額

単位: 百万円

対象集団		課題	現状(2019)	目標(2021年)
JA大井川	イチゴ	高齢化による農家戸数及び	421	450
JAハイナン			261	322
JA大井川	ガーベラ	栽培面積の減少	79	91
JAハイナン			177	214
イチゴ大規模生産法人		規模拡大	224	282
計			1,162	1,359

## 普及指導員の活動

### ○ 推進方向1 「企業的経営体の育成及び規模拡大の推進」

#### ■ 経営体への伴走支援による個別相談対応

- (1) 指導対象: 花き1、イチゴ2経営体(法人化志向の経営体)
- (2) 活動内容

- ・経営戦略講座での経営発展計画の作成支援
- ・法人化に向けた課題整理と行動計画作成に関する専門家派遣 3回

#### ■ イチゴ新規導入法人への技術支援

- (1) 指導対象: JAハイナンイチゴ基礎講座受講者5経営体(複合作物として新規導入)
- (2) 活動内容

- ・イチゴの生理生態特性の基礎講座 11回
- ・年間計画及び栽培計画の作成指導、栽培管理作業等の実技指導 75回



図1 採苗計画検討会

### ○ 推進方向2 「スマート農業の普及推進」

#### ■ 温室内栽培環境の実態把握

- (1) 指導対象: 次世代施設園芸技術習得支援事業(国庫補助事業)参加者イチゴ6、ガーベラ9経営体
- (2) 活動内容

- ・環境モニタリング機器の試験導入と環境管理と収穫量の分析

#### ■ 環境制御研究会開催による高生産性技術の普及

- (1) 指導対象: 環境制御技術に関心のある18経営体
- (2) 活動内容

- ・多収農家の環境制御技術習得研修および複合環境制御温室現地見学 12回
- ・高生産性技術マニュアルの作成と配布



図2 環境制御全体研修会

○推進方向3 「大規模施設園芸経営体の育成」

(1)指導対象:イチゴ大規模農業法人1経営体(施設面積259a)

(2)活動内容

- ・施設園芸大国しずおか構造改革緊急対策事業による規模拡大支援(令和元年42a)
- ・苗の安定確保に向けた育苗技術指導
- ・新品種‘きらぴ香’の特性を活かした新作型導入支援
- ・総合的病害虫管理技術の導入支援



図3 新作型研修会

具体的な成果

○「企業の経営体の育成及び規模拡大の推進」

■法人化

- ・イチゴ:指導対象2経営体の法人成り

■イチゴ栽培面積の拡大

- ・中古ハウスの活用による新規栽培開始:2経営体(表2参照)
- ・他作目からの新規導入:3経営体56a
- ・高設化による軽作業化温室:2経営体28a
- ・規模拡大に向けた自家育苗の開始:2経営体14a

表2 イチゴ新規参入法人等による規模拡大

面積(a)		2019年	2020年	2021年計画
育苗ほ		0	14	6
本ほ	土耕	16	28	6
	高設	0	28	12

○「スマート農業の普及推進」

■モニタリング機器の導入

- ・イチゴ:16戸、404a
- ・ガーベラ:3戸、36a

■複合環境装置の導入

- ・イチゴ:4戸、75a
- ・ガーベラ:2戸、38a

■成果のポイント

- ・環境要因の最適化により収量性の向上、省力化を図る機運が高まった。
- ・複合環境制御装置の導入推進に県単の次世代施設園芸デジタル化支援事業を活用

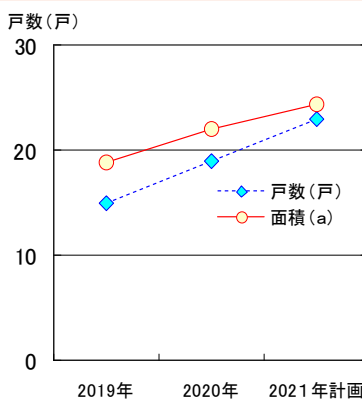


図4 モニタリング機器の導入状況

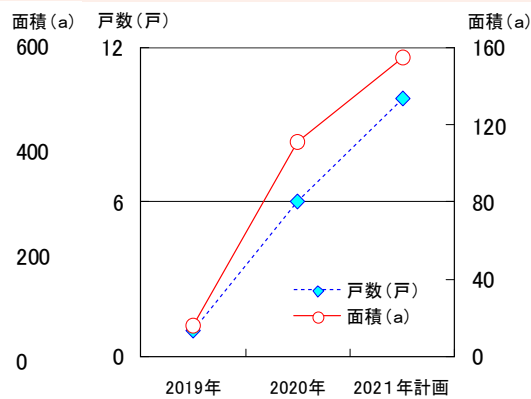


図5 複合環境制御装置の導入状況

○「大規模施設園芸経営体の育成」

■早期定植面積拡大による育苗管理の省力化

- ・7月上旬から本ほ高設ベッドを利用することにより、かん水管理が自動化された(149a)



図6 クラウン冷却装置

■新作型の開発

- ・夜冷育苗+クラウン冷却処理により年内出荷量が増加し収穫時期が分散化される

■総合的病害虫管理技術導入による省力化

- ・天敵利用、UVB照射により防除回数が削減(17回→9回)

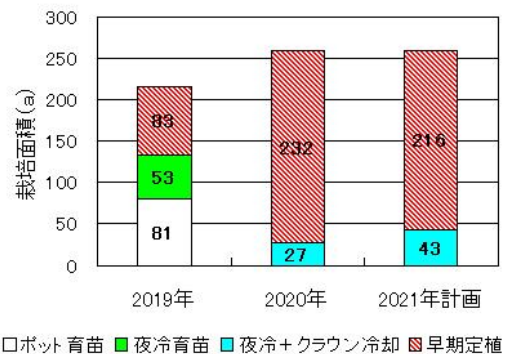


図7 早期定植導入面積の推移